

インドネシアにおける芸術教育と文化形成について

—前期中等教育を中心として—

福田 隆真^{*1}・石井 由理

Arts Education and the Formation of Culture in Indonesia: Focusing on Lower Secondary Education

FUKUDA Takamasa^{*1}, ISHII Yuri

(Received December 15, 2022)

キーワード：インドネシア、芸術教育、独自文化、前期中等教育、教材

はじめに

インドネシアは多民族、多文化社会である。芸術においても伝統工芸、宗教美術、西洋美術、現代美術、伝統音楽、芸術音楽、大衆商業音楽、現代音楽などの様々な分野の芸術が混在している状況である。こうした現状において、本稿は、社会人になるまでの義務教育としての前期中等教育（日本の中学校教育）において、美術教育、音楽教育の内容、方法について、教育課程、育成するコンピテンシー、教科書教材の調査・分析を行なう。

ここではインドネシアの芸術教育のうち、日本の中学校段階である前期中等教育（7、8、9学年）の美術教育と音楽教育を中心に述べる。この時期は社会人となるまでの義務教育の最終段階である。そこでインドネシアの美術と音楽の教育について、教育課程と教科書教材について述べ、卒業後の彼らの、国民文化、独自文化形成との関連を考察する。

インドネシアは多民族、多文化社会なので、基本的には文化は各民族が有している。歴史的に、オランダの植民地となってから、西洋文化が影響を及ぼし、さらには20世紀になってからのグローバル化の促進によりデザインなどの、国際様式（インターナショナル・スタイル）や現代芸術の流布へと変遷してきた。

そこで本稿では、グローバル化した現代のインドネシアにおける独自のインドネシアの文化、芸術の形成の基礎となる前期中等教育の美術と音楽の教育内容と育成するコンピテンシーについて、以下に述べる。

1. インドネシアの芸術教育カリキュラム

インドネシアの前期中等教育の芸術教科のカリキュラムは、A美術、B音楽、C舞踊、D演劇の4つの分野から構成されている。本稿で扱う美術と音楽のコアコンピテンシーとベーシックコンピテンシーの冒頭の記述は共通しており、以下の内容が書かれている。

「目的には1精神的態度、2社会的態度、3知識、4技能の四つのコンピテンシーが含まれ、これらは正課内、正課併行および／あるいは課外の学習過程を通して達成される。

精神的態度のコンピテンシーの形成は、『信奉している宗教の教えを正しく理解し実践する』ためのものである。社会的態度のコンピテンシーの形成は『関係性と存在の中で社会および自然環境との効果的な相互作用において、誠実な行動、規律、責任、思いやり（寛容、相互扶助）、礼儀、自信を、示すこと』である。どちらのコンピテンシーもそれぞれの教科の特徴や生徒の状況に注意を払うことによって、模範、習慣化、学校文化などの間接的な教育をとおして達成される。

態度のコンピテンシーの発達は、学習過程を通して実践され、教師が生徒の性質のさらなる発達を考慮する際に用いることができる」（Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan, 2018）。

*1 山口大学名誉教授

そして3、4は教科の内容なので、美術の知識、技能、音楽の知識、技能の育成を、芸術教科の美術分野と音楽分野が担っている。

2. インドネシアの美術文化の背景と実際

ここでは美術教育の背景となる美術文化について、その概略を述べる。

インドネシアは5000年以前からその歴史が始まり、文化の歴史も外部からの影響を受けながら変遷してきた。主なものは仏教とヒンズー教、中国文化の影響、イスラム教の影響、オランダ植民化時代の西洋文化である (Soemantri, 1998)。それらが今日のインドネシアの美術の基盤となっている。その後19世紀後半から近現代の美術文化の創造が始まり、1947年の独立を経て、今日に至っている。これらの近現代の美術の変遷を構造化すると図1のように想定できる。¹

第1層の民族の伝統文化の上に、西洋美術の直接的影響がある。それは19世紀半ばから活躍したラデン・サレによる功績が大きい。この時代が第2層に相当し、1938年にはインドネシア美術家協会 (PERSAGI: Persatuan Ahli-Ahli Gambar Indonesia)、1942年に市民活動センター (POETERA: Poesat Tenaga Rakyat)、1945年以降は国民文化協会 (LEKRA: Lembaga Kebudayaan Rakyat)、国家文化協会 (LKN: Lembaga Kebudayaan Nasional) が設立された。これらが第3層に当たる。

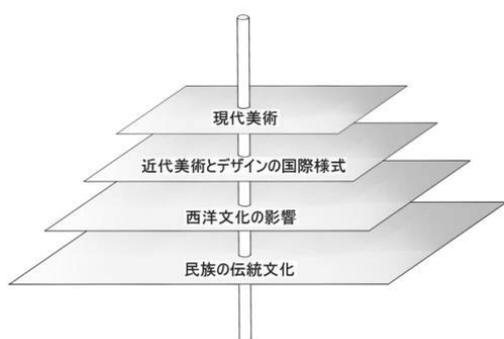


図1 近代のアジアの美術の四層構造

また1947年以降、バンドン工科大学、インドネシア美術大学 (ジョクジャカルタ)、ジャカルタ美術大学などが設立された。それらは建築、デザイン、抽象表現や象徴表現などの活動が発展した。そして1970年代になると、現代美術の追究が始まった。さらにデザインの世界的流布によるインターナショナル・スタイルの国際様式がデザインだけでなく、美術においても広まった。そこでは、世界に対するメッセージの発信が美術を媒体として活性化した。

実際に研究者や教育行政管は、インドネシアの美術文化について以下のように述べている。教育文化省の美術教育担当官 (1995年当時) であったセディオノはインドネシアの美術の規準について、「インドネシアは多くの民族からなる国なので、美術も多様性がある。従って、全国的な美術の教科書を作ることが、今は大変困難である。」と述べた (1995年福田のインタビューによる)。つまり、1995年当時、全国的に統一された美術の教科書を作ることができなかった。「インドネシア」の美術を提示することが困難であったからである。その後、2010年当時において、ジャカルタ州立大学の美術教育のチュット教授は「インドネシアは各民族が伝統美術を有しているが、多くは工芸である。いわゆる美術は西洋の影響が強い」と述べ、工芸の存在を強調された (2010年の福田によるインタビュー)。また、工芸・デザインの研修センターのクントリは「インドネシアは多様な工芸があり、今はそれらの標準化とデザインの研修を行っている」と述べた (2019年福田のインタビュー)。さらに西洋の影響については、ジョクジャカルタ州立大学のアンバルワティ教授が、2017年に「インドネシアの絵画、彫刻、デザインはとても西洋の影響を受けています。ほとんど西洋の様式で影響を受けすぎています。そして1947年の独立後は政権が変わるたびに、その影響を受けています」と述べた (2017年の福田のインタビューによる)。さらに工芸のことでは2017年にウバイ (当時山口大学大学院東アジア研究科博士課程学生、現在インドネシア政府内閣府職員) は「インドネシアのバティックは多くの種類がある。ジャカルタ、ジョクジャカルタ、チルボン、ソロをはじめ多様である。現在はそれらの特徴を融合したデザインも試行されている」と述べている (2017年福田のインタビューによる)。

これらことから、インドネシアの近現代の美術は西洋文化の影響を受けて、伝統工芸との融合を試行していたと言える。図1の四層構造から見ると、伝統文化を基盤として、その上に西洋の影響を受けて、近代美術が発生した。そこには伝統的な工芸にデザインや国際様式の影響を受け、インドネシアらしさの美術表現を試行してきたと言える。

これらことから、インドネシアの近現代の美術は西洋文化の影響を受けて、伝統工芸との融合を試行していたと言える。図1の四層構造から見ると、伝統文化を基盤として、その上に西洋の影響を受けて、近代美術が発生した。そこには伝統的な工芸にデザインや国際様式の影響を受け、インドネシアらしさの美術表現を試行してきたと言える。

3. 美術教育のコンピテンシー

ここでは、美術教育の指針となる教育課程について述べる。

最新のインドネシアの教育課程は2018年の改訂によるものである。この教育課程は、2004に施行された初等教育及び中等教育のカリキュラムがコンピテンシーを基盤とした考え方に基づくものである。現行の教育課程も2006年、2013年の改訂を経てきた（Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan, 2018）。

コンピテンシーを重視した教育課程はその目標に4つのコンピテンシーの育成を設定している。すなわち（1）精神的な態度、（2）社会的な態度、（3）知識、（4）技能である。精神的態度や社会的態度は全ての教科に共通する資質の育成である。そして知識と技能は教科の特質によるものである。以下では、美術教育の3の美術の知識と4の美術の技能のコンピテンシーを述べる。

・7学年

コアコンピテンシー3（美術の知識）

目に見える現象や出来事に関連する科学、技術、芸術、文化に対する好奇心をもって知識（事実、概念、及び手順）を身に付ける。

ベーシックコンピテンシー3（美術の知識）

3. 1 さまざまな材料で動植物や自然物を描くための要素、原理、技術、手順を理解する。
3. 2 動植物や幾何学的な形を装飾に描くための原理と手順を理解する。
3. 3 人工的な材料に装飾するための手順を理解する。自然の材料に装飾するための手順を理解する。

コアコンピテンシー4（美術の技能）

学校や他の情報源から学んだことに従い、同じ視点・理論に基づいて具体的領域（使用、解析、組合せ、改造、作成）と抽象的領域（書く、読む、計算する、作る）において試し、実行し、表す。

ベーシックコンピテンシー4（美術の技能）

4. 1 動植物、自然物を描く。動植物、幾何学的な形の構成を装飾に描く。
4. 2 人工的な材料にさまざまな装飾的なモチーフを使って作品を作る。
4. 3 自然の材料にさまざまな装飾的なモチーフを使って作品を作る。

・8学年

コアコンピテンシー3（美術の知識）

目に見える現象や出来事に関連する科学、技術、芸術、文化に対する好奇心をもって知識（事実、概念、および手順）を身につけ、使う。

ベーシックコンピテンシー3（美術の知識）

3. 1 さまざまな材料を使ってモデルを描く要素、原則、方法および手順を理解する。
3. 2 手描きまたはデジタル技術を使ってイラストを描く手順を理解する。
3. 3 さまざまな技法でポスターを描く手順を理解する。
3. 4 さまざまな技法で漫画を描く手順を理解する。

コアコンピテンシー4（美術の技能）

学校や他の情報源から学んだことに従い、具体的領域（使用、解析、組合せ、改造、作成）と抽象的領域（書く、読む、計算する、描く、作る）において実行し、表し、推測する。

ベーシックコンピテンシー4（美術の技能）

4. 1 観察に基づき、さまざまな材料と技術を使ってモデルを描く
4. 2 手描きまたはデジタル技術を使ってイラストを描く。

4. 3 さまざまな材料と技法でポスターを描く。
4. 4 さまざまなテクニックで漫画を描く。

・9学年

コアコンピテンスー3（美術の知識）

目に見える現象や出来事に関連する科学、技術、芸術、文化に対する好奇心をもって知識（事実、概念、および手順）を身につけ、使う。

ベーシックコンピテンスー3（美術の知識）

3. 1 さまざまな材料で絵を描くための要素、原則、技術、手順を理解する。
3. 2 さまざまな材料や技法で彫刻を制作する手順を理解する。
3. 3 さまざまな材料や技法でグラフィックアートを制作する手順を理解する。
3. 4 美術展を開催するための手順を理解する。

さらに技能のコンピテンスーについては以下のように定められている。

コアコンピテンスー4（美術の技能）

学校や他の情報源から学んだことに従い、具体的領域（使用、解析、組合せ、改造、作成）と抽象的領域（書く、読む、計算する、描く、作る）において実行し、表し、推測する。

ベーシックコンピテンスー4（美術の技能）

4. 1 さまざまな材料や技法で絵を描く。
4. 2 さまざまな材料や技法で彫刻作品を作る。
4. 3 さまざまな素材と技法でグラフィック作品を作る。
4. 4 術展を開催する。

以上のように美術に関わる知識と技能のコンピテンスーが学年ごとに定められている。そして精神的な態度や社会的態度のコンピテンスーについては、美術教育においても授業方法や制作活動、展示活動等を通して培われるのである。

4. 美術教育の教材構成

ここでは2018年のコンピテンスー重視の教育課程に基づいて編集された中等教育の中学校の教科書に示された教材を紹介する（Eko Purnomo, et al. 2018a, b, c）。

・7学年の美術教材

内容は自然物、人工物の絵画、構成・デザイン、工芸からなっている。それぞれの題材で、コンピテンスーの試験として、知識と技能の確認が行われる。

第1課 植物、動物、自然物を描く：コンピテンスーの学習の流れ図、はじめに、絵を描くことの理解、絵を描く対象、構図、絵を描く技術、描画材料・用具、コンピテンスーの試験、まとめ、発展。

第2課 装飾模様を描く：コンピテンスーの学習の流れ図、はじめに、装飾模様の理解、装飾模様のモチーフ、装飾模様のパターン、装飾模様の描画技術（植物模様の描画、動物模様の描画、幾何学模様の描画、人間の模様の描画）、コンピテンスーの試験、まとめ、発展。

第9課 テキスタイルの装飾模様：コンピテンスーの学習の流れ図、はじめに、テキスタイルへの装飾模様の応用、テキスタイル材料の種類と特徴、テキスタイルの種類と色、テキスタイル材料への装飾模様の描画

技術、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

第10課 木材工芸の装飾模様：コンピテンシーの学習の流れ図、はじめに、木材工芸への装飾模様の応用、装飾模様の応用例、木材工芸への装飾模様の応用技術（木材に装飾模様を彫るための道具、木彫の装飾模様の描き方、木材への装飾模様の絵）、発展、コンピテンシーの試験、まとめ。

・8学年の美術教材

内容は、静物画、イラストレーション、ポスター、漫画である。静物画は構図や彩色の技法が説明されている。ポスターのテーマは環境や社会、健康、催事などがあげられている。

第1課 モデル（静物）を描く：コンピテンシーの学習の流れ図、モデルを描く考え方と手順、モデルを描く原理（構図、プロポーション、バランス、統一感、モデルを描く上での要素）、モデルを描く用具・材料、静物を描く技術、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

第2課 イラストを描く：コンピテンシーの学習の流れ図、はじめに、イラストを描くこと、イラストの種類（カトゥーン、カリカチュア、コミック、文学のイラスト）、イラストの対象（人物、動物、植物）、材料・用具、イラストを描く手順、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

第9課 ポスターを作る：コンピテンシーの学習の流れ図、はじめに、ポスターを作る考え方、ポスターを作る条件（テーマと目的の決定、簡単で短いキャッチコピー、絵の活用、的確なメディアの使用）、材料・用具、まとめ、発展。

第10課 漫画を描く：コンピテンシーの学習の流れ図、はじめに、漫画を描く考え方、漫画を描く条件（テーマと目的の決定、簡単で短い文章、絵の活用、的確なメディアの使用）、漫画を描く材料用具、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

・9学年の美術教材

絵画では西洋画も紹介されている。彫刻では仏像から現代の彫刻まで事例としてあげ、作品制作は粘土による小作品である。主として知識理解を促している。グラフィックは、版画の紹介であり、主に知識理解を促している。展覧会の題材では、実際に展覧会を開催することで、知識と技能の理解を深めることを促している。

第1課 絵画：コンピテンシーの学習の流れ図、絵画の様式あるいは流れ（絵画の理解、絵画作品の制作の目的、絵画の歴史）、絵画のテーマ（自画像、人物画、風景画、静物画、生活画、空想画）、絵画制作の材料用具、絵画の技法と利用できる材料、絵画作品制作の手順、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

第2課 彫刻：コンピテンシーの学習の流れ図、彫刻の理解と機能（自己表現としての彫刻、社会的な機能としての彫刻、物理的な機能としての彫刻）、彫刻作品制作の材料用具、彫刻作品制作の技法、彫刻作品政策の実践、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

第9課 グラフィック：コンピテンシーの学習の流れ図、グラフィックの理解と機能、グラフィック作品の種類と技法（凸版、凹版、平版、スクリーン印刷）、グラフィック作品制作、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

第10課 展覧会：コンピテンシーの学習の流れ図、展覧会の理解・機能・目的、展覧会計画（委員会、展覧会委員会の役割、実行計画の整理、展覧会日程の調整）、美術展覧会の運営工程（展覧会運営の準備、展示空間の工程、実行工程）、展覧会の評価、コンピテンシーの試験、まとめ、発展。

5. インドネシアの音楽文化の背景と実際

本節では音楽について述べていく。インドネシアは300年以上にわたってオランダ領東インドと呼ばれる植民地であったが、音楽文化に関しては、オランダ植民地政府の政策は各地方の伝統音楽を保護することが中心であり、ヨーロッパの音楽を浸透させるための組織的な活動はなかった。8学年の音楽の教科書の伝統音楽に関する章に、インドネシアの歌や楽器は中国、インド、ポルトガルなどの音楽の影響を受けたと書かれているように (Eko Purnomo, et al., 2018b)、交易の拠点として様々な国の人々が交わるうちに多様な音楽がインドネシア各地の民間の音楽文化に入り込んでいる。

オランダ領東インドの上流社会を形成していたオランダ人が好んで聞いた音楽はヨーロッパ古典音楽のような本格的な芸術音楽ではなく、気軽に聞ける肩の凝らない音楽であった (McGrow, 2013, 28)。オランダ植民地時代にミッションナリー・スクールで学んだインドネシア人の作曲家たちが1920年代に書いた、現在ではナショナル・ソングとなっている多くの西洋形式の愛国歌も、マック (Mack, 2007) よれば商業的民族音楽であるとのことである。独立前後の1930年から1950年にかけては、インドネシアという独立国家の音楽文化を定めようという議論も行われたが、ヨーロッパの芸術音楽を取り入れるという意見とインドネシアの音楽を基盤にすべきだという意見が対立したうえ、インドネシアの音楽も地方によって多様であったため、結論は出ないままとなった (Mack 2007, 64; McGrow, 2013, 54)。

1960年代に政府はインドネシア各地にKonservatori Karawitan Indonesia (インドネシア伝統音楽学校) を設立し、音楽と美術の教育を始めた。バリでは1986年に西洋音楽コースを設けたが²、現在に至るまでインドネシア社会におけるヨーロッパの芸術音楽の影響は限定的である。たとえば1999年に開かれたアジア作曲家連盟の集会では、インドネシアの作曲家の音楽文化に対するアプローチは、西洋芸術音楽の影響を受けている他のアジア諸国の作曲家とは異なるものとされている (McGrow, 2013, 29)。

これに対して、ポップやロックなどの西洋の大衆商業音楽のインドネシアの音楽文化への影響は顕著である。スカルノ時代に西洋の大衆商業音楽が禁止されたこともあったが、スハルト時代になると再び流入するようになった。J-popやK-popが基本的に西洋大衆音楽の形式であるのと同様に、現在のインドネシア・ポップも西洋形式の音楽にインドネシア語の歌詞をつけたもの、地方語ポップは地方語の歌詞をつけたものである。

6. 音楽教育のコンピテンシー

音楽はナショナル・カリキュラムの総合芸術教科のコアコンピテンシー、ベーシックコンピテンシーに関する記述の中で、「B音楽芸術」として掲載されている。美術と共通の説明文に続けて、3学年の音楽のコアおよびベーシックコンピテンシーが一覧表で示されている。

音楽で取り上げられているのはコアコンピテンシー3の知識とコアコンピテンシー4の技能で、それぞれのコアコンピテンシーのもとに各4項目のベーシックコンピテンシーが列記されている。具体的には以下のとおりである (Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan, 2018)。

・7学年

コアコンピテンシー3 (知識)

目に見える現象や出来事に関連する科学、技術、芸術、文化に対する好奇心をもって知識 (事実、概念、手順) を身に付ける

ベーシックコンピテンシー

3. 1 斉唱形式で複数の人が一つの声で歌うことの基本概念を理解する
3. 2 複数の人が2部以上の合唱で歌うことの基本を理解する
3. 3 単純な楽器を音楽的に演奏することの基本概念を理解する
3. 4 アンサンブル音楽の基本概念を理解する

コアコンピテンシー4 (技能)

学校や他の情報源から学んだことに従い、同じ視点・理論に基づいて具体的領域（使用、解析、組合せ、改造、作成）と抽象的領域（書く、読む、計算する、描く、作る）において試し、実行し、表す。

ベーシックコンピテンシー

4. 1 齊唱形式で複数の人が1部で歌う
4. 2 合唱形式で2部以上の合唱で歌う
4. 3 単純な楽器を音楽的に演奏する
4. 4 同種の楽器および異なる種類の楽器のアンサンブル演奏をする

・8学年

コアコンピテンシー3（知識）

目に見える現象や出来事に関連する科学、技術、芸術、文化に対する好奇心をもって知識（事実、概念、および手順）を身につけ、使う。

ベーシックコンピテンシー

3. 1 民謡の歌唱テクニックとスタイルを理解する
3. 2 二人もしくは一人で歌う民謡のテクニックとスタイルを理解する
3. 3 個人でどれか一つの伝統楽器の演奏テクニックを理解する
3. 4 複数人で伝統楽器を演奏するテクニックを理解する

コアコンピテンシー4（技能）

学校や他の情報源から学んだことに従い、同じ視点・理論に基づいて、具体的領域（使用、解析、組合せ、改造、作成）と抽象的領域（書く、読む、計算する、描く、作る）において実行し、表し、推測する。

ベーシックコンピテンシー

4. 1 民謡を生徒の方言や地方のイントネーションにもとづいたテクニックとスタイルで歌う
4. 2 複数人で二つ以上の音で調和させて民謡を歌う
4. 3 伝統楽器の一つを個人で演奏する
4. 4 伝統楽器を複数人で演奏する

・9学年

コアコンピテンシー3（知識）

目に見える現象や出来事に関連する科学、技術、芸術、文化に対する好奇心をもって知識（事実、概念、および手順）を身につけ、使う。

ベーシックコンピテンシー

3. 1 1人で歌う歌の旋律とリズムの装飾のテクニックの展開を理解する
3. 2 複数人で歌う歌のリズムと旋律の装飾の展開のテクニックを理解する
3. 3 大衆音楽の概念、形式、特徴を理解する
3. 4 大衆音楽の演奏を理解する

コアコンピテンシー4（技能）

学校や他の情報源から学んだことに従い、同じ視点・理論に基づいて具体的領域（使用、解析、組合せ、改造、作成）と抽象的領域（書く、読む、計算する、描く、作る）において実行し、表し、推測する。

ベーシックコンピテンシー

4. 1 1人で歌う歌のリズムと旋律を装飾する
4. 2 複数人で歌う歌のリズムと旋律を装飾する

- 4. 3 個人で大衆音楽作品を歌ったり楽器で演奏したりする
- 4. 4 大衆音楽に加えたリズムと旋律の装飾をアンサンブル演奏の形式で特徴づける

上記のように、構成としては、7学年で学んだ斉唱と2部合唱、ソロ演奏とアンサンブルの演奏の概念としての理解と実際の演奏を、8学年で伝統的な民謡と楽器演奏にあてはめ、9学年ではさらにリズムや旋律に装飾をつけることを理解、実際にやってみたのちに、大衆音楽の歌唱と楽器演奏に適用するという順に学んでいくことになっている。

7. 音楽教育の教材構成

教育課程の音楽のコンピテンシーの育成に基づいて、以下に示す教科書の単元構成に忠実に反映されている。各学年の教科書ではそれぞれ第3課、第4課、第11課、第12課の4つの課が音楽に割り振られており、各単元のはじめにコンピテンシーの学習の流れ図、終わりにコンピテンシー試験、まとめ、振り返りが含まれている。各課のタイトルと内容は次のようになっている。

・7学年の音楽教材

第3課 一つの声で歌う：コンピテンシーの学習の流れ図、ユニゾンの説明、文化遺産としての民謡の説明、発声技法と呼吸法の説明、発声練習が書かれている。

第4課 単純な楽器を演奏する：コンピテンシーの学習の流れ図、地方の楽器と自分の地方の楽器をまとめる表、アンサンブル音楽、楽器演奏の技法、楽器の紹介があり、最後に旋律楽器の演奏としてリコーダーの演奏がある。

第11課 一つより多くの声で歌う：コンピテンシーの学習の流れ図ののち、複数で歌う歌唱の紹介で、アカペラ、カノン、ナシド (Nasyid) と呼ばれるイスラムの宗教色のある歌などが紹介されている。女性グループと男性グループに分かれての二重唱、三重唱の練習もある。また、振り返りには、よい合唱のためには協力、責任感、他のメンバーへの心配りが必要だとあり、道德教育の要素が見受けられる。

第12課 楽器を組み合わせて演奏する：コンピテンシーの学習の流れ図、リズム楽器、旋律楽器、和音楽器があることが説明され、それらの楽器の例と自分の地方の楽器を表に整理する。リズム楽器の例はインドネシアの諸地方の楽器、旋律楽器はリコーダー、トランペット、バンブーフルート、サロンというインドネシアの楽器が例示されている。和音楽器の例はピアノ、エレクトーン、オルガン、ギターで、ギターの弾き方の学習が続く。これらののち、ギターとリコーダーの合奏をするように指示がある。最後に伝統音楽や楽器演奏などの舞台芸術は道德性の涵養と地域福祉のための経済にも重要であると述べられており、ここでも道德教育との関連が強調されている。

・8学年の音楽教材

第3課 地方民謡のスタイルと歌唱：コンピテンシーの学習の流れ図ののち、インドネシア社会の伝統における音楽の位置づけと機能が、儀式での音楽や舞踊とともに演奏される音楽、遊び歌、情報手段としての歌を例として説明された後、伝統音楽の技法と歌唱スタイルが紹介され、伝統音楽の歌手は単に歌うだけでなく、良い声を出すために漢方で健康管理をしていること、タブーを守り、全能の神に対する厚い信仰心が求められることなどが書かれている。こののち、民謡を通してインドネシアの他の地方の文化を知ることができるとあり、その文化に合った歌い方で民謡を歌う課題がある

第4課 伝統楽器演奏の技法：コンピテンシーの学習の流れ図ののち、インドネシアの伝統音楽の種類、楽器の種類と例、およびその演奏技法について学ぶ。特にアングルンを取り上げ、実際に音を出す練習を指示

している。

第11課 伝統的な歌の歌唱：コンピテンシーの学習の流れ図、インドネシア各地方には独特な民謡があること、民謡は結婚式、誕生日、葬式などで歌われるほか、他の人へのアドバイスや賞賛の意味で歌われることもあることが紹介されたのちに、地方の歌のテクニックとスタイルを練習し、歌う。

第12課 伝統的な楽器の演奏：コンピテンシーの学習の流れ図ののち、伝統的な楽器の演奏として、インドネシア各地にあるガムランを説明したのち、練習をし、演奏する。

・9学年の音楽教材

第3課 1人で歌を歌う：コンピテンシーの学習の流れ図、人の声は様々であることを説明したのち、クラスメートの音域を調べる作業がある。また、インドネシアの歌手を2名選んで姿勢、息継ぎの仕方、口の動きなど8項目について観察する。音の響きや息継ぎなどの歌唱テクニックを学んだのち、歌手の演奏を観察する。最後は即興演奏に関する記述である。

第4課 複数の人で歌う大衆歌曲：コンピテンシーの学習の流れ図、複数で歌う大衆歌謡の歌唱は、3-10人の場合が多く、伴奏を伴わないアカペラなどもあることが述べられたのち、コードを利用した二重唱、三重唱への編曲方法について解説、即興演奏部分、エンディング部分などの実際の編曲の作業へと続く。

第11課 大衆歌曲を歌う：コンピテンシーの学習の流れ図、大衆歌謡の種類例としてポップス、ジャズ、ロック、ダンドウット³を紹介し、大衆歌謡の歌唱スタイルを説明した後に実際に歌唱の練習をする。

第12課 大衆歌曲のアンサンブル：コンピテンシーの学習の流れ図、アンサンブルには同類楽器によるアンサンブルと異なる種類の楽器で構成される混合アンサンブルがあること、アンサンブルでの演奏の際には、各演奏者に規律、読譜力、演奏技術、一体感と協力が求められることが述べられたのち、ソプラノリコーダーの二重奏やギターとの混合アンサンブルの練習をする。

全体をとおして特徴的なのは、各課にある歌唱教材、演奏教材が「Are you sleeping?」以外は全てインドネシアのナショナル・ソング、各地方の民謡、大衆歌謡曲だということである。これらのうち、ナショナル・ソングと地方の民謡は初等中等教育での必修歌曲とされている。また、偉大な音楽家として紹介されているのもナショナル・ソングを作曲したインドネシア人作曲家のみである。

歌唱教材、演奏教材の楽譜は、伝統音楽のものも含め、基本的に五線譜であり、音階やコード、リズムの概念も西洋の音楽理論に基づくものである。楽器として演奏するのもリコーダーとギターという西洋の楽器が中心であるが、前期中等教育3年間をとおしてヨーロッパ古典音楽の作品や作曲家について学ぶ内容は含まれていない。また、日本の学校音楽では、ワールドミュージックスとして世界各地の音楽を紹介程度に教えるが、インドネシアの前期中等教育の教科書にはその要素は見られない。

おわりに：独自文化形成

以上、現在のインドネシアの中等教育前期の美術教育と音楽教育の内容を述べた。インドネシアは300を超える多民族からなり、多文化社会である。そのため「多様性の中の統一」を国のモットーとして発展している。多様性であることを認めることを国是としている。

芸術を通しての教育は、芸術文化の継承と創造の態度の育成がある。美術では図1に示したように、伝統文化から現代美術までを包括して国民文化と考えられる。第1層の伝統文化を7学年で主に取り扱い、第2、3層が8学年9学年で取り扱われている。つまり、インドネシアを構成する各民族の伝統文化と西洋文化の影響による美術文化の創造を統合したものが、インドネシアの美術として捉えられている。それによって前期中等教育修了後の芸術高校や職業学校の美術分野にも繋がるのである。

音楽教育では各州の民謡やナショナル・ソングなどの必修歌曲が教材となっているが、美術の4層モデルに当てはめれば、1層であった民謡に2層で西洋の影響が入り、明確な意図をもって西洋の音楽形式で書かれたナショナル・ソングが3層を成す。2層で取り入れた西洋の音楽が、芸術音楽ではなく大衆商業音楽であった点が日本と大きく異なる点である。しかし、楽譜のなかった民謡や伝統的な音楽を伝えるために西洋の記譜法を用い、単旋律と和音を理解するために西洋の楽器、演奏方法が教えられており、1層への影響は続いている。グローバル時代となり、音としては西洋のポップスとほとんど区別がつかない曲も、歌詞の言語によってインドネシア独自の曲であることを主張し、民謡、ナショナル・ソングとともに、インドネシアの音楽文化を構成するものとして教えられている。

美術も音楽も現代のインドネシア社会には伝統的なものから近現代のものまで混在している。ポップアートもインドネシア・ポップスも氾濫している。そうした芸術的な環境において、美術も音楽もインドネシアを意識する教材によって、芸術的な資質能力を育成しようとしている。

以上のように、インドネシアにおける前期中等教育での芸術の教育では、伝統的な内容とグローバル化による西洋からの影響による新たな美術と音楽が創造され、伝統的な文化と現代的文化が混在、融合が行われている。こうした状況の中でインドネシアの特徴をもった美術、音楽が創造され自国の文化の形成に繋がっている。前期中等教育の芸術の教育はまさにその基礎である。

註

1. この、「アジアにおける近代の美術の四層構造」は福田が独自に構想したものである。福田隆眞、「アジアにおける近代美術の四層構造と美術教育」、『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』、第44号、2017年、参照のこと。
2. 2019年に石井が実施した、バリの芸術大学の音楽を専門とする教員へのインタビューに基づく。
3. 東洋と西洋の様々な音楽が融合したインドネシアで最も人気のある大衆音楽の一つ。

付記

本稿は以下の文部科学省研究費補助金による研究の一環である。石井由理代表「アジアの芸術教育におけるグローバル化と国民文化形成」（2017-2022, 研究種目：基盤研究（C）, 課題番号：17K04793）、福田隆眞代表「アジアのグローバル化と芸術教育による独自文化形成の調査研究」（2022-2025, 基盤研究（C）, 課題番号22K02635）。

参考文献

- Eko Purnomo, et al. (2018a) . *Seni budaya kelas VII*. Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia.
- Eko Purnomo, et al. (2018b) . *Seni budaya kelas VIII*. Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia.
- Eko Purnomo, et al. (2018c) . *Seni budaya kelas IX*. Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia.
- Soemantri, H. (1998) . *Indonesian Heritage Visual Art*. Archipelago Press.
- Mack, D. (2007) . Art (music) education in Indonesia: A great potential but a dilemmatic situation. *Educationist*, 1 (2) , 62-74.
- McGrow, A. C. (2013) . *Radical traditions: Reimagining culture in Balinese contemporary music*. New York: Oxford University Press.
- Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan. (2018) . *Republik Indonesia Nomor 37 Tahun 2018 tentang Perubahan atas Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan Nomor 24 Tahun 2016 tentang Kompetensi Inti dan Kompetensi dasar Perajaran pada Kurikulum 2013 pada Pendidikan Dasar dan Pendidikan Menengah*
- Republik Indonesia. (2018) . *Indonesia Semangat Dunia, Psmeran Seni Koleksi Istana Kepersidenan*.